

2005年度(平成17年度)

# 広島大学附属中・高等学校

# 教育研究大会

11月11日(金)  
12日(土)

## 確かな学力への展望3

祝 創立100周年 広島大学附属中・高等学校

第1日 11月11日(金) 9:30~16:30

|    |    |               |       |
|----|----|---------------|-------|
| 国語 | 中2 | 読心力を高める       | 三根 直美 |
| 社会 | 中1 | 中世社会の人々       | 橋本 浩  |
| 数学 | 中3 | 点の集合と図形       | 井上 芳文 |
|    | 高I | 空間図形の計量       | 喜田 英昭 |
| 理科 | 中2 | 物質が結びつく変化     | 平松 敦史 |
| 保体 | 高I | ハンドボール        | 大江 明  |
| 英語 | 中1 | 4技能の統合を目指した授業 | 赤松 猛  |
| 家庭 | 高I | 味覚の表現         | 日浦美智代 |

|    |     |                    |       |
|----|-----|--------------------|-------|
| 国語 | 高II | 面白さを伝える            | 西原 利典 |
| 公民 | 高I  | 現代において徳を考える        | 高田 悟  |
| 数学 | 中2  | 平面図形的应用            | 吉田 浩一 |
|    | 高II | 式と曲線               | 井ノ迫泰弘 |
| 理科 | 高I  | 地球の年令              | 有田 正志 |
| 保体 | 中1  | 陸上競技 一立高跳び         | 新堀 稔文 |
| 音楽 | 中1  | 日本の音を通して鑑賞の心を深めよう  | 増井知世子 |
| 美術 | 中3  | わたしの表現「平和へのメッセージ」  | 森長 俊六 |
| 英語 | 高I  | 情報の効果的なとらえ方を目指した授業 | 石原 義文 |
| 技術 | 中3  | ペン皿の製作             | 隠善富士夫 |

|      |      |       |       |       |                      |       |              |       |       |       |
|------|------|-------|-------|-------|----------------------|-------|--------------|-------|-------|-------|
| 9:00 | 9:30 | 10:20 | 10:35 | 11:25 | 11:40                | 12:30 | 13:30        | 14:40 | 15:00 | 16:30 |
| 受付   | 公開授業 | 休憩    | 公開授業  | 休憩    | 公開授業<br>研究発表<br>研究協議 | 昼食    | 研究発表<br>研究協議 | 移動    | 講演    |       |

|           |            |               |       |
|-----------|------------|---------------|-------|
| 音楽        | 高I         | オーケストラ活動への導入  | 原 寛暁  |
| 工芸        | 高II        | FRPによる壁掛け時計制作 | 近藤 亘  |
| 〈ワークショップ〉 |            |               |       |
| 技家        | そば打ちにチャレンジ |               | 一ノ瀬孝恵 |

演題 「これからの中等教育を考える  
—次期学習指導要領に求められるもの—」

講師 早稲田大学教育学部教授 <sup>あひこ たどりこ</sup> 安彦 忠彦 先生  
(中央教育審議会委員)

第2日 11月12日(土) 9:00~15:00

## スーパーサイエンスハイスクール特別企画 (生徒課題研究発表, 講演, 研究協議)

◆詳細は「2005年度 中学校・高等学校  
教育研究大会のご案内」をご覧ください。



【参加申込み・問合せ先】  
広島大学附属中・高等学校 研究部

住所: 〒734-0005 広島市南区翠1丁目1-1  
TEL: 082-251-9867 FAX: 082-251-0208  
URL: <http://www.fsc.hiroshima-u.ac.jp/>  
e-mail: [conf2005@fsc.hiroshima-u.ac.jp](mailto:conf2005@fsc.hiroshima-u.ac.jp)

後援: 広島大学 広島県教育委員会 広島市教育委員会



## 2005年度（平成17年度）

# 中学校・高等学校 教育研究大会のご案内

みなさまにはますますご健勝で、日々教育にご精励のことと拝察いたします。

さて、本年度の教育研究大会は、昨年に引き続き「確かな学力への展望（3）」を研究主題として開催いたします。本校では、「学力」をさまざまな角度から捉え直し、各教科における基礎・基本や発展的な学習のあり方などを研究してきており、公開授業等を通して各教科の研究の一端を発表したいと考えております。また当日は、中央教育審議会の委員も務めておられる安彦忠彦先生をお招きして、これからの中等教育のあり方についての講演会も行います。

本校は平成15年度からスーパーサイエンス・ハイスクールの指定を受け、理数系の教科を中心としながら、将来の科学技術研究を担うための基礎的能力を有する生徒を育成する教育課程や教育内容の開発研究を進めております。今年度はまとめの年次でもありますので、第2日には研究開発の報告を行い、スーパーサイエンス・クラスの生徒による課題研究の発表も行います。

公務多端の折とは存じますが、多数の先生方にご参加を賜り、広くご指導、ご批判をいただきますよう、ご案内申し上げます

広島大学附属中・高等学校長 景山 三平

### 記

1. 主 題 確かな学力への展望（3）
2. 主 催 広島大学附属中・高等学校 中等教育研究会
3. 後 援 広島県教育委員会 広島市教育委員会
4. 期 日 2005年（平成17年）11月11日（金）・12日（土）
5. 会 場 広島大学附属中・高等学校  
〒734-0005 広島市南区翠一丁目1番1号  
TEL 082-251-9867（研究部） FAX 082-251-0208（研究部）  
TEL 082-251-0192（事務室） FAX 082-252-0725（事務室）

### 6. 日 程 ■ 11月11日（金）

|      |             |       |        |       |       |
|------|-------------|-------|--------|-------|-------|
| 9:00 | 9:30(10:35) | 12:30 | 13:30  | 15:00 | 16:30 |
| 受付   | 各教科分科会      | 昼食    | 各教科分科会 | 講演    |       |

### ■ 11月12日（土）

|      |                          |       |
|------|--------------------------|-------|
| 8:30 | 9:00                     | 15:00 |
| 受付   | スーパーサイエンス・ハイスクール<br>特別企画 |       |

### 7. 申込方法

- (1) 参加申込書に必要事項を記入して、11月7日（月）までに本会に申し込んでください。
- (2) 当日参加も受け付けますが、資料等が不足することもありますので、なるべく期日までにお申し込みください。
- (3) 参加申込書の送付先は次の通りです。  
〒734-0005 広島市南区翠一丁目1番1号 広島大学附属中・高等学校 中等教育研究会
- (4) FAXやe-mailでの申込も受け付けています。

FAX 082-251-0208 e-mail conf2005@fsc.hiroshima-u.ac.jp

### 8. 参加費

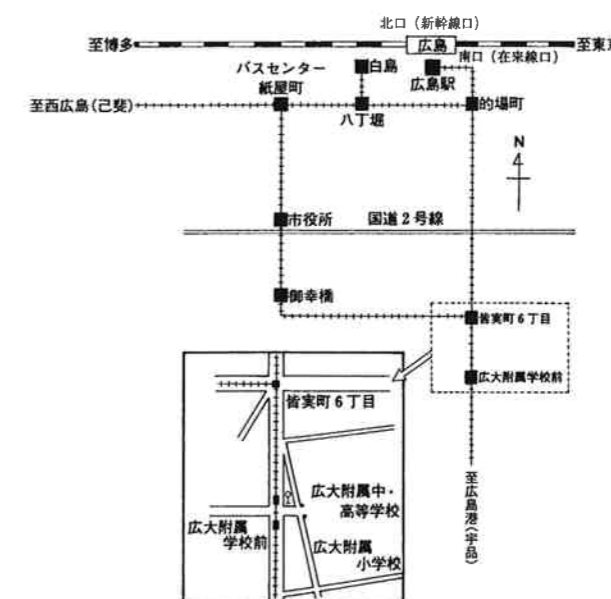
資料代を含めて、お一人2,500円です。当日、受付にて納入してください。  
なお、11月12日（土）のみの参加については、参加費・資料代ともに無料です。

### 9. その他

- (1) 駐車台数に制限がありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
- (2) 昼食については、本校の食堂を営業しておりますので、ご利用ください。
- (3) 宿泊については、各自でご手配ください。
- (4) ウェブページ上で各教科分科会の最新情報を随時掲載する予定です。  
<http://www.fsc.hiroshima-u.ac.jp>
- (5) 研究大会に関して、何かご不明な点がございましたら、本校研究部までお問い合わせください。

広島大学附属中・高等学校 研究部 TEL 082-251-9867  
FAX 082-251-0208  
e-mail conf2005@fsc.hiroshima-u.ac.jp

### 本校への案内図



### 交通機関のご案内

広島駅南口（在来線口）より、市内電車⑤ 比治山下経由 広島港（宇品）行で所要時間約20分。  
広島港（宇品）より、市内電車①⑤ 広島駅行、または③ 西広島（己斐）行で所要時間約10分。  
紙屋町（バスセンター最寄り）より、市内電車①③ 広島港（宇品）行で所要時間約20分。

\*いずれも市内電車は、電停「広大附属学校前」で下車。

広島駅南口（在来線口）より、広島バス31号（翠町）線で所要時間約15分。「広大附属高校前」で下車。

## 2005 (平成 17) 年度 中学校・高等学校 教育研究大会

|  |
|--|
| <p><span><b>社会・地理歴史・公民科</b></span></p> |
|--|

## 教科分科会の概要

|                                |
|--------------------------------|
| <p><span><b>国語科</b></span></p> |
|--------------------------------|

■公開授業（中2）
「読む力を高める―「花いちもんめ」(宮本研)を通して―

自分の立場からの読み方しかできない、一場面・一部分にこだわった読みになり、様々な言動・状況を考えた上での読み取りができない、傍観者的な立場からの読みにとどまってしまうことなどが、日頃の読みの授業で感じている問題点です。そういった読みの傾向に陥らない授業のあり方をめざし、「花いちもんめ」の学習材に書かれていない場面を設定して、ロールプレイしていくことを通して、読みの力をつけていく授業を考えていきたいと思います。

■公開授業（高II）
「面白さを伝える―スーパーサイエンスクラスでの実践II―

カリキュラム上でのスーパーサイエンスクラスと一般クラスの違いの一つに「課題研究」があります。その成果を全校生徒の前で発表する場が設けられていますが、研究内容自体は大変素晴らしいものでも、それを他者に伝えるとなるとなかなかうまくいかないのが実態です。昨年度は科学的文章を読み、それに対する批評を生徒に書かせ、生徒が書いたものを相互に批評しあい、書き手である生徒の論理が文章表現を通じてクラスメイトにどう伝わるかを検証しました。今回の学習では、自分が見出した「面白さ」を言語表現（発表）で他者に如何に伝えるか、論理の構築から態度・語法を含めたコミュニケーション能力の育成・定着を目指します。

■研究発表
「和歌の読みをいかにして成立させるか」
和歌を読む愉しさは和歌と対話し、また読者同士がその歌をめぐって読みを交流することによって得られます。対話とは問いと答えの交換であり、読者が問いを発して追究して得られたものが和歌からの答えです。和歌について読者はそれぞれ独自の読みを持っています。それを発表し合うことによって自己の読みが相対化され、また読みの広がりも感じることができます。このように課題追究による新たな認識の獲得、そして読者同士の共感的な読みの交流によって和歌を読む愉しさを感得できます。どのようにして和歌を読み、どのような学力が働いて読みが成立したか、それについて報告します。

|                                |
|--------------------------------|
| <p><span><b>数学科</b></span></p> |
|--------------------------------|

数学科では、考える力や問題を解決する力の充実を図り確かな学力を定着させるため、一昨年より発展的な学習を積極的に取り入れております。今年も「発展的な学習を通して確かな学力を展望する授業の創造(3)」をテーマとして、公開授業や研究発表を行います。

■公開授業（中3）
「点の集合と図形」
ある条件を満たす点の集合が作り出す図形について考察します。円や直線、放物線などを題材として扱いながら、軌跡の考え方について的一端を紹介していきます。

■公開授業（高I）
「空間図形の計量―正多面体とピラミッドに潜む2つの角度を探そう―」
正多面体は、正四面体、正六面体、正八面体、正十二面体、正二十面体の5種類しか存在しません。この正多面体には、ピラミッドと共通する角度が潜んでおり、その角度の謎を解く鍵となるのが、黄金比と大和比と呼ばれる2つの比であるといわれています。この授業では、正多面体とピラミッドに潜む2つの角度を、三角比を利用して調べ、その神秘さ、美しさを感じさせたいと考えています。

■公開授業（中2）
「平面図形の応用― 共円条件―」
学習指導要領の改訂に伴い、円周角の定理の逆や共円条件が指導内容からはずれ、図形の考察においては、対応する辺の長さや比、対応する角の大きさの比較に集中してしまう傾向があり、幾何の授業において強い達成感を味わわせることが困難になっています。

生徒は、平素より幾何の困難な課題に対して、解決の糸口をさがすために図中に補助線をひく取り組みを行っていることから、共円条件から見えてくる「補助円」をさらに意識させることで、発見の喜びや幾何学のおもしろさを伝えていきたいと思います。

■公開授業（高III）
「式と曲線―コンピュータを利用して曲線を表示し、いろいろな離心率の値と2次曲線の関係を考える―」

一定値eと定点Fと定直線lが与えられたとし、定点Fと定直線lへの距離の比 ***PF*** / ***PH*** が e の値に等しくなる動点Pの軌跡を考えます。そして、コンピュータを利用してe のいろいろな値に対する曲線を表示し、離心率と2次曲線の関係について考えていきます。

■研究発表
「総合学習―スポーツを通した国際理解―」
現在生徒たちが享受しているスポーツ場面を批判的にとらえ、スポーツ享受の主体者としての在り方を考えさせる学習の展開を考察します。

■公開授業（中1男女共習）
「立高跳び」
近代オリンピックの初期に正式種目であった立高跳びを教材として取り上げます。生徒自らが跳び方を工夫する授業にしたいと考えています。

■研究発表
「総合学習―スポーツを通した国際理解―」
現在生徒たちが享受しているスポーツ場面を批判的にとらえ、スポーツ享受の主体者としての在り方を考えさせる学習の展開を考察します。

現在、学習指導案は、地域や学校によって様々な様式があるといった状況です。そこで、幾つかの県の教育委員会や附属学校から数学科の学習指導案を集めて、その様式について検討を行いました。その結果から、学習指導案の様式と記入の仕方について整理し、試案を提示します。この試案について、みなさんと意見交換をしたいと考えています。

|                               |
|-------------------------------|
| <p><span><b>理科</b></span></p> |
|-------------------------------|

中学校理科の内容削減により、生徒の学力低下、思考力の低下が問題とされ、削減された内容を、発展的な学習として扱う取り組みが、本校を含めて、各学校で実施されています。私たちは、発展的な学習を、探究活動とも結びつけて教材開発に取り組んできました。発展的な学習は、単に知識の不足を補うだけでなく、科学的思考力も高めることが重要であると考えます。難しい課題ではありますが、今年度より取り組んでいくこととなりました。

公開する授業「物質が結びつく変化」(中2)では、銅と硫黄が化合する実験を通して、化学変化の規則性を見いださせるとともに、化学変化を原子や分子といった微視的な見方で捉えさせることがねらいです。また「地球の年令」(高I)では、いくつかの作業仮説を通して得た結果を、比較・検討し、新たな作業仮説を構築する科学的アプローチの方法を学習します。

本校の取り組みの一部しかご覧いただけませんが、私たちの意図をご理解いただき、率直なご意見、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

|                                  |
|----------------------------------|
| <p><span><b>保健体育科</b></span></p> |
|----------------------------------|

■公開授業（高I男子）
「ハンドボール」
ボールを片手で保持してのスピードにのった攻撃とその防御をハンドボールの特性としてとらえ、ハンドボールにおける個人戦術と、2対2をベースとしたグループ戦術を、スペースをキーワードとして理解する学習を展開します。

■公開授業（中1男女共習）
「立高跳び」
近代オリンピックの初期に正式種目であった立高跳びを教材として取り上げます。生徒自らが跳び方を工夫する授業にしたいと考えています。

■研究発表
「総合学習―スポーツを通した国際理解―」
現在生徒たちが享受しているスポーツ場面を批判的にとらえ、スポーツ享受の主体者としての在り方を考えさせる学習の展開を考察します。

研究協議では、公開授業の質問・意見交換に続き、「わかる」「できる」をキーワードに、学力をつけるための、学び場の設定とその工夫について情報交換や協議をしていきたいと考えています。

|                                    |
|------------------------------------|
| <p><span><b>芸術科（音楽）</b></span></p> |
|------------------------------------|

■公開授業（中1）
「日本の音を通して鑑賞の心を深めよう」
日本の楽器の中でも尺八と箏に焦点を当て、和楽器固有の表現法や音色の美しさを感じ取らせたいと思います。授業では実際に箏を体験し、箏曲の鑑賞へとつなげていきます。

■公開授業（高I）
「授業におけるオーケストラ活動への導入」
「授業におけるオーケストラ活動への導入」
初心者が大多数である状況の中、週1時間の限られた枠の中でいかに楽しみながら基礎技術を学習させ、楽曲演奏へとつなげてゆくか。実践を通し、その方法論を探ってゆきます。

|                                       |
|---------------------------------------|
| <p><span><b>芸術科（美術・工芸）</b></span></p> |
|---------------------------------------|

■公開授業（中3選択美術）
「わたしの表現―平和へのメッセージ―」
中学3年美術選択者が、共通のテーマである「平和」を意識して各自の課題を明確化し、表現する課題設定学習です。表現方法は、イラスト、CG、陶芸など、それぞれが意図に応じて選択した方法です。主体的な活動のための支援や指導はいかにあるべきでしょうか。

■公開授業（高II工芸）
「FRPによる壁掛け時計制作」
生徒達は、FRP（積層強化プラスチック）という、やや専門的で手間のかかる素材を用いながら、オリジナルの時計を制作します。工芸の発展的題材を通して、ものづくりの大変さ、そして魅力を感じられるよう、展開していきたいと思っています。

|                                |
|--------------------------------|
| <p><span><b>英語科</b></span></p> |
|--------------------------------|

大学入試センター試験におけるリスニングの導入に伴い、中高等学校現場におけるリスニング指導の重要性は、ますます高まっています。そこで、英語科では主題を「リスニングの系統的指導を目指して」と設定し、中高6ヵ年で段階的・系統的に取り入れていける効果的な指導を目指して研究を進めています。

■研究発表
「リスニングの系統的指導を目指して」
先行研究をもとにリスニング力の構成要素を明らかにし、リスニング力を伸ばすためにはどのような指導法が有効であるのかを考えます。そして、それらの指導法を中高6年間のそれぞれの学年のどの時期に、どのような形で取り入れていけばよいのかという

## 広島大学附属中・高等学校

|  |
|--|
| <p><span><b>社会・地理歴史・公民科</b></span></p> |
|--|

■公開授業（中1）
「4技能の統合を目指した授業」
■公開授業（高I）
「情報の効果的などらえ方を目指した授業」

上記、研究発表の概要で述べた、リスニング力を伸ばす指導法を中高6年間のそれぞれの学年のどの時期に、どのような形で取り入れていくのかということを視野に入れ、1時間の授業の中にどのような形で取り入れることができるのか、その一例を示します。入門期である中1では4技能の統合を目指し、高Iでは情報をとらえるという観点からみたリスニング指導も取り入れた授業を行います。

|                                   |
|-----------------------------------|
| <p><span><b>技術・家庭科</b></span></p> |
|-----------------------------------|

■公開授業（中3選択技術）
技術科では、「A技術とものづくり」の木材加工に関する学習の発展的な題材として、中3選択クラスでペン皿の製作の公開授業を行います。現在、社会や学校現場で刃物の取り扱いの是非が論議される中、刃物の発達の歴史やその正しい使用方法に関する学習を通して、生活の中で用いられるさまざまな刃物を安全かつ適切に使用することができる力を身につけさせることは重要な課題です。ここでは、一枚の板材から、のみを用いて深さを彫り出すことを主眼とし、小刀や彫刻刀などを用いて成形してペン皿を製作していきます。

■公開授業（高I家庭総合）
「生活の科学と文化」の発展的な題材として、高等学校1年生で「味覚の表現」の授業をします。私たちがどのような食べ物を「おいしい」と判断するのだろうか。「おいしさ」の判断を下しているものは何なのか。グローバル化、バーチャル化しつつある時代、私たち本来の能力、人間の味覚と嗅覚によって生じる感性の正体を探っていきます。

■ワークショップ
「そば打ち」体験実習
先生方を対象にした「そば打ち」体験実習を開催します。1～2時間の調理実習の中で本格的な「そばうち」が出来ます。「そば」を切り口として食文化の授業展開へも広げることが出来る魅力ある実習題材です。今年是中国へ出かけて取材した「世界のそば」のさまざまな食べ方の発表もあります。また、そばアレルギーへの対応も考え、他の種類も紹介させていただきます。ぜひ、エブロンご持参の上、ワークショップへご参加ください。

11月11日(金) 教科分科会

(公開授業・研究発表・研究協議)

数 学 科

<教科主題>発展的な学習を通して確かな学力を展望する授業の創造(3)

<助言者>広島大学大学院教育学研究科教授 今岡 光範  
 広島大学大学院教育学研究科助教授 小山 正孝

|             |                    |   |       |
|-------------|--------------------|---|-------|
| 9:30~10:20  | 公開授業<br><中3>       | 点の集合と図形                                 | 井上 芳文 |
|             | 公開授業<br><高I・数学I>   | 空間図形の計量<br>—正多面体とピラミッド—                 | 喜田 英昭 |
| 10:35~11:25 | 公開授業<br><中2>       | 平面図形の応用 —共円条件—                          | 吉田 浩一 |
|             | 公開授業<br><高III・数学C> | 式と曲線 —コンピュータで曲線を表示し<br>離心率と2次曲線の関係を考える— | 井ノ迫泰弘 |
| 11:40~12:30 | 授 業 説 明 ・ 研 究 協 議  |   |       |
| 13:30~14:40 | 研究発表               | 中学校・高等学校における数学科学習<br>指導案の研究             | 吉村 直道 |
|             | 研 究 協 議            |   |       |

芸 術 科 (音楽)

<教科主題>生きて働く学力の育成をめざして(3)

<助言者>広島大学大学院教育学研究科教授 吉富 功修

|             |                   |                    |       |
|-------------|-------------------|--------------------|-------|
| 10:35~11:25 | 公開授業<br><中1>      | 日本の音を通して鑑賞の心を深めよう  | 増井知世子 |
| 11:40~12:30 | 公開授業<br><高I・音楽I>  | 授業におけるオーケストラ活動への導入 | 原 寛暁  |
| 13:30~14:40 | 授 業 説 明 ・ 研 究 協 議 |                    |       |

芸 術 科 (美術・工芸)

<教科主題>生きて働く学力の育成をめざして(3)

<助言者>広島市立大学大学院芸術学研究科教授 若山 裕昭

|             |                    |                   |       |
|-------------|--------------------|-------------------|-------|
| 10:35~11:25 | 公開授業<br><中3・美術>    | わたしの表現『平和へのメッセージ』 | 森長 俊六 |
| 11:40~12:30 | 公開授業<br><高II・I芸II> | FRPによる壁掛け時計制作     | 近藤 亘  |
| 13:30~14:40 | 授 業 説 明 ・ 研 究 協 議  |                   |       |

国 語 科

<教科主題>国語学力の定着をはかる授業の構想(3)

<助言者>広島大学大学院教育学研究科教授 吉田 裕久  
 広島大学大学院教育学研究科教授 竹村 信治

|             |                   |                                 |       |
|-------------|-------------------|---------------------------------|-------|
| 9:30~10:20  | 公開授業<br><中2>      | 読む力を高める<br>—「花いちもんめ」(宮本研)を通して—  | 三根 直美 |
| 10:35~11:25 | 公開授業<br><高II・現代文> | 面白さを伝える<br>—スーパーサイエンスクラスでの実践II— | 西原 利典 |
| 11:40~12:30 | 研究発表              | 和歌の読みをいかにして成立させるか               | 新治 功  |
|             | 授 業 説 明           |                                 |       |
| 13:30~14:40 | 研 究 協 議           |                                 |       |

理 科

<教科主題>科学的思考力を高める授業の創造

<助言者>広島大学大学院教育学研究科教授 鈴木 盛久

|             |                    |                   |                |
|-------------|--------------------|-------------------|----------------|
| 9:30~10:20  | 公開授業<br><中2・第1分野>  | 物質が結びつく変化         | 平松 敦史          |
| 10:35~11:25 | 公開授業<br><高I・理科総合B> | 地球の年令             | 有田 正志          |
| 11:40~12:30 | 基調提案               | 科学的思考力を高める授業の創造   | 有田 正志          |
|             | 研究発表               | 発展的な学習を取り入れた授業の展開 | 白神 聖也<br>佐々木康子 |
| 13:30~14:40 | 授 業 説 明 ・ 研 究 協 議  |                   |                |

英 語 科

<教科主題>リスニングの系統的指導を目指して

<助言者>広島大学大学院教育学研究科教授 三浦 省五  
 広島大学大学院教育学研究科教授 深澤 清治

|             |                   |                    |       |
|-------------|-------------------|--------------------|-------|
| 9:30~10:20  | 公開授業<br><中1>      | 4技能の統合を目指した授業      | 赤松 猛  |
| 10:35~11:25 | 公開授業<br><高I・英語I>  | 情報の効果的なとらえ方を目指した授業 | 石原 義文 |
| 11:40~12:30 | 授 業 説 明 ・ 研 究 協 議 |                    |       |
| 13:30~14:40 | 研究発表              | リスニングの系統的指導を目指して   | 久山 慎也 |
|             | 研 究 協 議           |                    |       |

社会・地理歴史・公民科

<教科主題>確かな学力への展望(3)

<助言者>広島大学大学院教育学研究科教授 片上 宗二

|             |                    |   |      |
|-------------|--------------------|---|------|
| 9:30~10:20  | 公開授業<br><中1・歴史的分野> | 中世社会の人々   | 橋本 浩 |
| 10:35~11:25 | 公開授業<br><高I・現代社会>  | 現代において徳を考える<br>—古代ギリシアの徳概念は現代において有効か—                   | 高田 悟 |
| 11:40~12:30 | 授 業 説 明 ・ 研 究 協 議  |   |      |
| 13:30~14:40 | 講 演                | 演題<br>「確かな社会認識と豊かな市民的資質をどう育むか」<br>広島大学大学院教育学研究科教授 片上 宗二 |      |

保 健 体 育 科

<教科主題>自ら学ぶ力を育てる授業の創造

<助言者>広島大学大学院教育学研究科教授 江刺 幸政

|             |                   |                        |       |
|-------------|-------------------|------------------------|-------|
| 9:30~10:20  | 公開授業<br><高I・男子>   | ハンドボール                 | 大辻 明  |
| 10:35~11:25 | 公開授業<br><中1・男女共習> | 陸上競技 —立高跳び—            | 新堀 稔文 |
| 11:40~12:30 | 研究発表              | 総合学習<br>「スポーツを通じた国際理解」 | 大辻 明  |
| 13:30~14:40 | 授 業 説 明 ・ 研 究 協 議 |                        |       |

技 術 ・ 家 庭 科

<教科主題>豊かな心を育むために

<助言者>広島大学大学院教育学研究科教授 上田 邦夫  
 広島大学大学院教育学研究科教授 柴 静子

|             |                   |                         |       |
|-------------|-------------------|-------------------------|-------|
| 9:30~10:20  | 公開授業<br><高I・家庭総合> | 味覚の表現<br>—「おいしさ」とは何だろう— | 日浦美智代 |
| 10:35~11:25 | 公開授業<br><中3・技術>   | ペン皿の製作 (A技術とものづくり)      | 隠善富士夫 |
| 11:40~12:30 | ワークショップ           | そば打ちにチャレンジ              | 一ノ瀬孝恵 |
| 13:30~14:40 | 授 業 説 明 ・ 研 究 協 議 |                         |       |

全体講演 11月11日(金) 15:00~16:30

これからの中等教育を考える 一次期学習指導要領に求められるもの

早稲田大学教育学部 安彦 忠彦 先生

広島大学附属高等学校  
スーパーサイエンス・ハイスクール特別企画

はじめに

・日本の中等教育の現状：中学校に問題が集中している！

### 1 中等教育の原理的性格

- (1) 中等教育は、「初等教育」と「高等教育」に挟まれている。
  - ・単線型か複線型かによる「岐路」の位置。
- (2) 中等教育は「普通教育と専門教育」を行う：「自立」と「個性」に焦点化。
  - ・普通教育＝（前期）国民基礎教育＋（後期）専門基礎教育→「観」の形成。
  - ・専門教育＝（前期）個性探求＋（後期）個性伸長→「個性的自立」。
- (3) 中学校教育でなく「前期中等教育」、高校教育でなく「後期中等教育」。
  - ・前期中等教育＝中等普通教育（義務教育として）のみ。→「自立への基礎」と「個性探求」
  - ・後期中等教育＝高等普通教育及び専門教育→「自立への準備」（観と職業）と「個性伸長」

### 2 中等教育の改革動向：「多様性」の中で「質の向上」を図る。

- (1) 中学校は「義務教育の最終学校」としての機能を強める方向。
- (2) 高校は「準義務教育学校」としての性格をどの程度強化するのか。
  - ・「義務教育」をどうという性格のものとしてとらえるか→「共通」か「選択」か。
  - ・「非義務教育」学校としての性格をどう扱うのか→「課程」か「年数」か。
- (3) 大学の大量化による「高等教育の中等教育化」の傾向との関係。
  - ・高校教育の「前期中等教育化＝中学校化」があるのか否か。

### 3 中等教育のめざすもの：「個性豊かで、平和と共生をめざす、自立した日本人の育成」

- (1) 子どもの「進路選択」への援助・支援を核に「選択能力」の育成と「意志」の教育を！
  - ・「自分との競争」と「認め合い・支え合い・励まし合い」の両方の心を育てよ！
- (2) 大学教育との連携・連絡の強化。→ 高大連携などの動きがある。
  - ・高校教育と大学の教養教育との連絡・結合の試み
- (3) 実社会・産業界との連携・連絡の強化。→ インターンシップなどの充実強化。
  - ・職業高校の大学進学志向の強まり＝産業界の大学生志向との関係。

おわりに

- ・「質の多様性」を等価と見るとともに、「量の多様性」もある水準以上で認める。
- ・「敗者復活戦」のある＝失敗を取り戻せる機会を設ける社会システムを！

〔講師紹介〕

安彦 忠彦（あびこただひこ）先生 早稲田大学教育学部教授（中央教育審議会委員）

<略歴> 1942年東京都生まれ。1964年東京大学教育学部卒業。同大学院博士課程を中退して就職。大阪大学文学部、愛知教育大学、名古屋大学教育学部を経て、2002年4月から現職。なお1996～7年名古屋大学教育学部附属中・高等学校長併任、2000～1年同大学院教育発達科学研究科長兼教育学部長併任。名古屋大学名誉教授。博士（教育学）。

<専門> カリキュラム論（主として中等）、教育方法、教育評価

<著書> 『特色ある学校づくりのための新しいカリキュラム開発』（全5巻）監修・〈第1巻〉編著（ぎょうせい）2004年、『カリキュラム開発で進める学校改革－21世紀型授業づくり』（明治図書）2003年、『中・高「総合的学習」のカリキュラム開発』共著（明治図書）1997年など。

本校は平成15年度にスーパーサイエンス・ハイスクール（SSH）に指定され、今年で3年目となりました。この間、将来科学技術系に進む人材の育成やサイエンスリテラシーをもつ市民の育成をめざして教育課程の開発研究を行い、昨年度からは高等学校第2・3学年にはスーパーサイエンス・クラスを設置して、各種プログラムや課題研究を実施してきました。

研究開発第3年次である本年度は、下記の通り、3年間の研究開発の経過や成果を報告するとともに、現第2学年スーパーサイエンス・クラスの生徒たちが今年4月から取り組んでいる課題研究の発表を行います。第3学年生徒の課題研究はひとまず終結したところですが、第2学年は研究途上であり、研究者の方々やご参加の皆様方からご助言・ご批判をいただきまして、一層の深化を図りたいと考えております。

また当日は、科学ジャーナリストの目から見た日本の科学教育とスーパーサイエンス・ハイスクールについて、朝日新聞社東京本社科学医療部次長大牟田透氏による講演を予定しています。多数の皆様方のご参加をいただきますようお願い申し上げます。

記

### 1. 日程 2005（平成17）年11月12日（土）

- 9:00-12:00 生徒課題研究発表（口頭発表、ポスターセッション）
- 13:00-13:30 スーパーサイエンス・ハイスクール事業報告
- 13:30-15:00 講演「科学ジャーナリストから見た日本の科学教育とSSH」  
朝日新聞社東京本社科学医療部次長 大牟田 透氏

### 2. 会場 広島大学附属中・高等学校 研修館

### 3. 2005年度課題研究テーマ一覧

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| ① 偏光現象を用いた液体の屈折率測定 | ② 風力発電装置の開発          |
| ③ 自律型ロボットの製作       | ④ 安定した電力の得られる燃料電池の開発 |
| ⑤ リパーゼを用いた加水分解反応   | ⑥ 香りと有機化合物           |
| ⑦ 新しい乳酸菌の抽出と培養     | ⑧ カエルの初期発生           |
| ⑨ 花粉管の伸長と環境条件      | ⑩ 植物の組織培養            |
| ⑪ 筋硬度と関節可動域        | ⑫ スターボウ              |
| ⑬ 味覚               | ⑭ 発酵食品               |
| ⑮ 折り紙と美しい曲線        |                      |

このうち、いくつかのテーマについて口頭発表を行い、残りはポスター発表を行います。各グループの研究は進行中のため、当日の発表テーマは若干異なる場合があります。

※ スーパーサイエンス・ハイスクール運営指導委員の先生方、広島大学の先生方等から指導助言をいただく予定です。

※ 特別企画のみの参加については、参加費・資料代ともに無料です。